

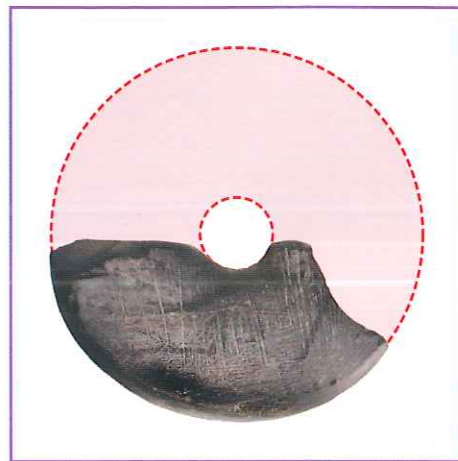
令和5年度 発掘調査 ここに注目

令和5年度発掘調査では、弥生時代の特徴のある出土遺物を紹介します。

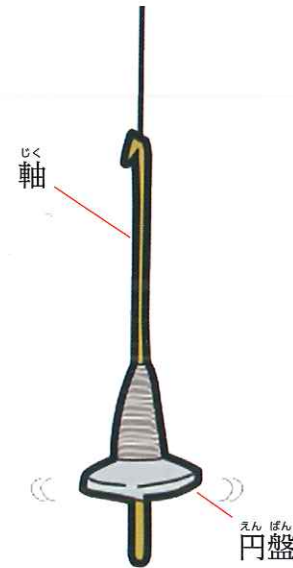
紡錘車とは

弥生時代には、稲作とともに布を織る技術も日本列島に伝わりました。糸を撚るための道具として、軸の部分と円盤形の紡錘車からできています。弥生時代の遺跡からは石製、土製などの紡錘車が出土しています。

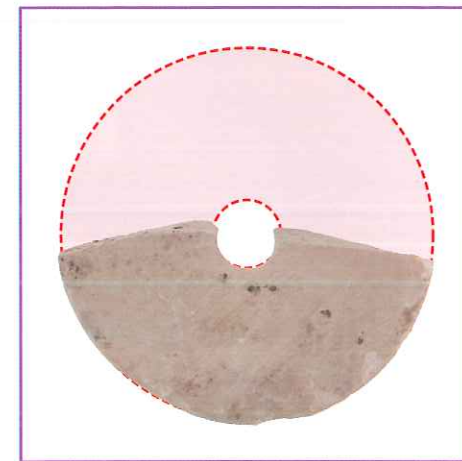
令和5年に出土した石製の紡錘車(47区)
直径は約6.7cmで、黒っぽい石が使われている。



紡錘車 (47区出土)



令和2年に出土した石製の紡錘車(15区)
直径は約6.2cmで、白っぽい石が使われている。



紡錘車 (15区出土)

空撮について

前のページにも載っている遺跡の写真は一体どのようにして撮影しているのでしょうか？近年ではドローンを使って、地上約30～80メートルの高さから調査区を撮影しています。



飛行
開始!



令和5年度

大門遺跡

田端地区

発掘調査

大門遺跡はJR袋井駅南口エリアから袋井南コミュニティセンター付近まで広がる弥生時代中期から古墳時代初頭を中心にした遺跡です。袋井駅南都市拠点土地区画整理事業に伴って、遺跡の発掘調査を平成30年度から継続的に行なっています。

遺跡の調査に伴って、弥生時代～古墳時代の当時の人々が使った道具（遺物）や生活の痕跡（遺構）が多く見つかっています。令和5年度調査で新たに発見された遺物や遺構をご紹介します。

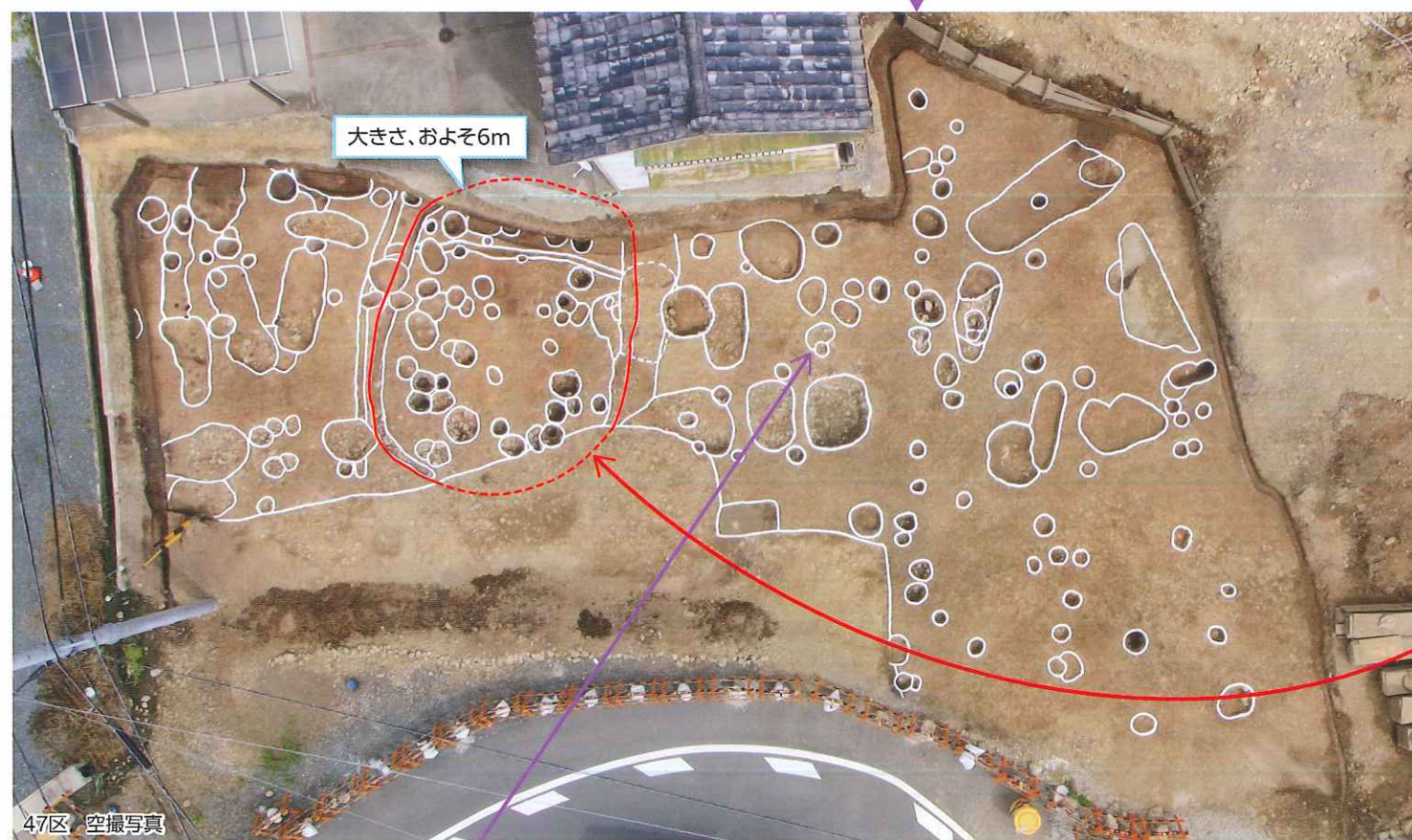


令和5年度調査の成果

令和5年度は調査区41～50区・52区まで発掘が完了しました。面積は合計で3,409㎡です。

大門遺跡は丘陵の先端に位置し、およそ2,000年前の弥生時代のムラの跡です。袋井で最も大きな集落の一つです。

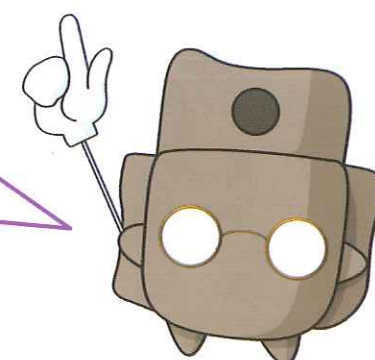
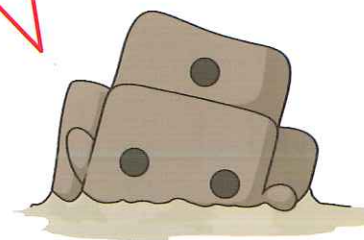
竪穴住居や掘立柱建物、穴、溝などの生活の痕跡が見つっています。



赤い線で囲った範囲は、竪穴住居の跡です。地面を掘りこんで床とし、柱をたてて屋根をかけた住居です。照明や食べ物の煮炊きに使った炉の跡も見つかりました。竪穴住居は遺跡内のあちこちで見つっています。

方形周溝墓とは？

周囲に溝を掘って、溝で囲まれたなかを低く土を盛ったお墓です。墳丘(盛り土)に穴を掘って木の棺を納めて、亡くなった方を埋葬していました。溝の隅を掘り残して通路として使ったりしていました。とても丁寧に作られており、村の有力者のお墓と考えられます。

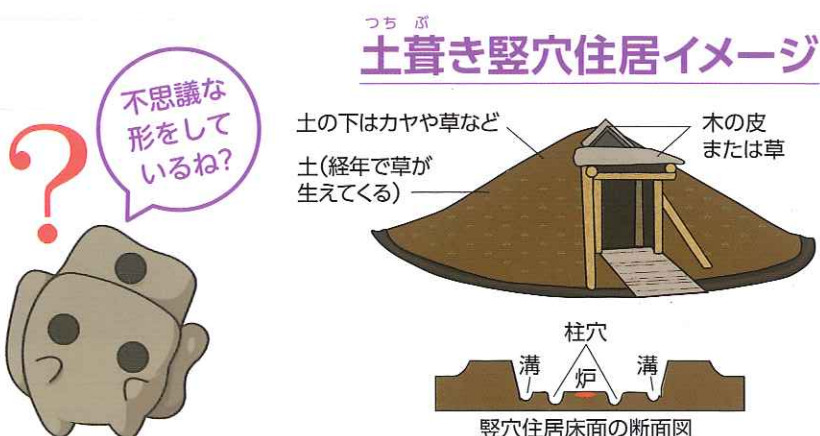


銅鐸形土製品さん(大門遺跡イメージキャラクター)

47調査区にて、本遺跡2例目の紡錘車が穴のなかから見つかりました。



紡錘車出土状況



年表		
明治時代～		
江戸時代		安土桃山時代
室町時代		500年前
鎌倉時代		—
平安時代		1000年前 A.D.1000年
奈良時代		—
飛鳥時代		—
古墳時代★		1500年前
弥生時代★		2000年前 A.D.1年
縄文時代		2500年前 3000年前 B.C.1000年

★は主に見つかった遺構・遺物の時代です。